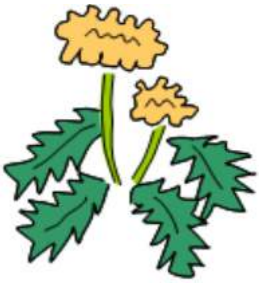
たんぽぽ

NO.396
R2年7月1日
-発行-
〒869-1217
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
☎096-293-8100



コロナについて②

理事長　松田　健

帰宅や面会の制限を行っていましたが、6月13日に帰宅の制限を一部解除しました。3、4カ月ぶりの帰宅が実現できました。ご協力ありがとうございました。帰園後2、3名の方が37度台の熱症状がありました。がすぐに平熱となりホッとしました。

当面は月に1回の帰宅日となりますが見通しを持てることで利用者の方は安心して過ごされるようになりました。

感染の不安は今後も当面はあり続けると思います。その間、人々の行動や生活を制限し続けるのではなく、適切な感染への予防策をとりながら、現実的に生活を営んでいきたいと思います。

身体的な健康をより意識して生活します。免疫力を高めるため運動（特に散歩）、休養・睡眠・栄養、水分補給等を心がけていきます。

制限の緩和を行っていますが、まだまだ窮屈で閉塞感を伴う状況です。精神的な健康を損なわないように、継続して楽しみ（下記写真をご参照ください）をみなさんに提供していきたいと思います。他施設の機関紙やホームページ・ブログ等をみるとコロナに対してのいろんな取り組みをされているのがわかり、とても勉強になります。

「いまこそ」冬の支度（第2波、第3波対策）をすべきだと強く感じています。皆様におかれましても何卒ご留意くださいますようお願い申し上げます。

さんきマーケット：体育館に模擬店を作り、買物を楽しんでいただきました。

ローソン移動販売車：毎週木曜日に来ていただいています。

さんきマルシェ：プリンの移動販売車に来てもらいました。クレープとジュースもいただきました。また、体育館でよかな　ゆかいな仲間（よかな　ゆかいな仲間とは、三気の里の利用者に対して、余暇活動として音楽を提供する音楽好きの有志スタッフのことです。）によるミニコンサートを行いました。のんびり、ゆっくりした時間を過ごすことができました。

7月

「予告と実際」

先日6月11日の木曜日に健康診断がありました。木曜日はいつもならコンビニの移動販売がありますが、この日は健康診断でしたので移動販売はありません。

Aさんは移動販売の日を楽しみにされます。朝から健康診断のバスは来ているが、午後からはコンビニが来ると期待しているようで、午前中もどこか期待している様子でした。昼食後にAさんと、カレンダーを使い「コンビニ」「×」と書いて説明します。頷かれてはいますが、表情は硬いままでした。しかし実際に診察を受ける頃になると、今までの表情から一転し、柔和な表情が見られていました。最初は分からなかったのですが、時間を確認するといつもなら移動販売が始まっている時間でした。Aさんは時間を見て、「本当に今日は移動販売がない」と思われ、そこから切り替わった様子でした。予告も重要ですが、実際に確認することが一番の安心に繋がるというAさんの特性を垣間見た瞬間でした。

副主任　小城　崇

「ご挨拶」

今年4月より三気の里へ入職致しました。前職では知的障がい及び視覚・聴覚障がいなど重複障がいのある方の入所施設に勤めておりました。皆さんとお会いしてまだ僅かになりますが、作業に集中して取り組まれている姿、休日には笑顔で寛いでおられる姿を見ると、私自身やる気と勇気を頂いております。作業内容では主にフルーツネットやハンカチなどの袋詰めをしております。フルーツネットではいくつかの工程があり、形を作る、5組1つに型はめ、ゴムとめ、確認というように様々な作業があります。簡単のようですが実際にやってみるとなかなかコツがいる作業も多く、丁寧かつ素早く作業される姿に大変驚きました。得意分野や不得意分野は人それぞれですが、関わりを深める中で1人ひとりの好きな事を沢山みつけながら、ともに成長していきたいです。三気の里の合言葉「のん気・こん気・げん気」で皆さんと楽しく生活をさせて頂きたいと思います。

支援員　麻生　聡一郎

「感謝の気持ち」

新型コロナウイルス対策のための自粛が始まってから、三気の里では、毎週木曜日にローソンの移動販売が行われています。3班の利用者Fさんも毎週木曜を楽しみにされていらっしゃいます。

ある日、Fさんがローソンの方にお手紙を書きたいと話されました。このような状況の中でも、毎週三気の里に来て下さることへの感謝を伝えたいとのことでした。お手紙の内容や、渡す色紙のデザインや飾りつけもすべて自発的に取り組まれ、悩みながら完成されていました。作っている様子を見ていて、Fさんの「ありがとう」という気持ちがとても伝わってきました。自粛で様々な場面に制限がかかり、やりたいことが難しい・会いたい人になかなか会えない日々が続いていますが、そんな状況だからこそFさんのように、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思います。

支援員　今福　夏希

「4班さんの元気の源」

「来たよ！！」とKさんの一言。

しばらくして移動販売車の宣伝放送が響いてきます。朝から販売車の訪問を楽しみにしていたKさんの耳にはいち早く届いていました。この日は特に作業を頑張っていたKさん。移動販売車には、ジュ-スにお菓子、デザートが沢山並べられてあり、お店がそのままやってきたようです．Aさんは，上段のカップラーメンを買いたいようですが、食事前の時間だったのでしぶしぶ他を選ばれました。あれこれ吟味していたNさんも欲しかったジュースとお菓子を手にとり満足そうな様子です。店員さんに品物を袋詰めしてもらい、今日の買い物は無事終了。青空の下で皆さんと食べるおやつは格別です。

支援員　荒川百合子

「できることを」

新型コロナウィルスの対策がとられて4か月が経ちました。世の中は自粛解除が進む中、三気の里も帰宅が再開されたりしています。5班は、通所とGHに分かれて活動をしています。GHの活動は、手もぎ、ぐるぐる倉庫の梱包、掃除、1班から作業提供して頂いているニフコのパッキン作業とトマトパックのシール貼りを行っています。それぞれが作業分担して取り組んでいます。Aさんはぐるぐる倉庫の作業では袋詰めから梱包のテープ貼りまで1人で取り組まれています。はじめはスタッフが行っていた作業も横で良く見られ、何度か一緒に行うことで覚えられています。また、スタッフが間違えている時には教えてくれたりしていて仕事内容を把握されており、とても頼りになります！

1人1人が出来ることを拡げられるように支援していき、その成長を作業だけではなく日々の暮らしの中にも取り入れていけるように支援していきたいと思います。

支援員　中村　圭助

「目指せ！素敵な社会人」

Sさんは、3月よりアンパからBeTREEに移行され、慣れない環境での仕事がスタートしました。移行当初は、これまでとは全く異なるメンバーや雰囲気、作業内容のため、緊張しているのか言葉数も少ないようでした。しかし、休憩時間の創作活動を通して他者と関わる機会が増えたことで、本人の笑顔も徐々に増え、仕事へのやる気もみられるようになってきました。また、作業スキルが上達したことはもちろんですが、作業時の報告、作業後の手洗い、言葉遣いなど、仕事を通して様々なマナーが身についてきていると感じています。本人にとって苦手な仕事もあるようですが、無理をさせるわけではなく取り組む時間を決めて提示する、好きな仕事も提供するなどして、今は苦手な仕事でもSさんの意欲を引き出し、素敵な社会人になれるよう、共に頑張っていきます！　支援員　有馬　幸奈

課長だより

「取り組み紹介」

事業課長　平川　聖子

コロナウイルス感染対策開始からはや３か月。全国の緊急事態宣言の発令・解除を経て、ようやく日常の生活や経済活動を取り戻す段階に来ています。取り戻すといっても、これまでと全く同じではなく、新しい生活様式を取り入れていく必要があります。わずかな違いを全く別のものと感じて不安になったり、新しいものを余計なものとして排除したがったりといった障がい特性があり、新しい生活様式を取り入れることが容易ではない方もおられます。しかし、外に出る時はマスクをつけること、人との距離を取らなければならないこと、お店では足跡のマークに合わせて並び、ビニールカーテン越しに支払いをすることといったこれまでと違う社会のルールを身につけなければ、これまでのように外出や外食を楽しむことはできません。そこで毎週のローソンの移動販売で、マスク着用や足跡のマークに並ぶ練習をしたり、ＢｅＴＲＥＥの店舗を利用して、手指消毒、ビニールカーテン越しの商品の受け取りを練習したりとポストコロナに向けての取り組みを始めました。生活様式だけでなく、各事業所の運営や活動の在り方もポストコロナに向けて見直すべきところがあると思います。

感染状況や社会の動向に合わせて、そして何より利用者様にとって何が良いのかを見据えて検討をしていきたいと思います。

自治会

「想いを形にする」

支援員　元杉　朋世

今年度になり、６名の方が自治会役員に立候補されました。選挙により、新しく会長・副会長・書記が決まり、活動をしていこうとしていた矢先に、緊急事態宣言が発令され、三気の里での生活においても、状況が変わりました。“コロナウイルス”“感染症”といった、目では確認できない状況に、利用者の方々も不安を持たれていたと思います。この様な状況の中で、マスクを頂いたり、ローソンの移動販売に来て頂いたりと、地域の皆様からのご好意を沢山頂きました。そこで、自治会会長のＦさんから、「三気の里の代表として、自治会のメンバーで感謝状を作れないだろうか」「私の趣味をいかしたい」と提案があり、自治会のメンバーで言葉を寄せ合い、折り紙を折ったり、貼り付けたりと役割をそれぞれ決めて感謝状を作成されていました。様子を見守らせて頂きながら、私も感謝の気持ちを伝えられる人でありたいと思いました。

ハラスメント防止委員会

「ハラスメントとは」

支援員　石原　佳奈

「その人にとっては何気ない言動であっても、相手は不快と感じる。」

そのような事例は世の中に溢れています。それら全てがハラスメントというわけではありませんが、人の数だけ受け止め方は様々なので、とても分かり難く、線引きが難しい問題だと思います。三気の里でもより良い利用者支援を目指すには、互いに気持ちよく働くことのできる環境が必要です。また職員間だけではなく、利用者の方々に何より目を向けなければなりません。被害を受けたとしても訴えることが困難なため、細心の注意を払い、汲み取ることができるよう支援していきたいと思います。そのためには、一人ひとりがハラスメントについて理解し、言動、行動に配慮しなければならないと思います。今後も、ハラスメントの無い施設を目指し取り組んでいきたいと考えています。

療育雑記

「変化」

主任支援員　石丸直美

今年度10年以上ぶりに、大幅な女性利用者の居室の変更がされました。てんかん発作の有無、自身の行動に注意を払えるか、利用者個々の睡眠スタイル、利用者間の関係性、他の人の物を触らないなどのルールを守れるかどうか等を加味して、何度も検討を重ね、利用者、利用者家族に承諾をしてもらい居室割りをしています。そのため、事故防止の観点から支援度が高い入眠に時間のかかる方、夜間や早朝覚醒があり常に支援を必要とする方々は、スタッフの待機場所や、トイレに近い居室を使われていました。しかし、今年度は加齢によって、起き上がりの介助、移動の介助が必要な方々が、よりスタッフが待機している場所やトイレに近い居室を利用してもらうこととなり、大幅な居室移動になりました。

20年以上居室を移動したことが無かった方が移動となり、各居室の顔ぶれが変わり、個々が変化に戸惑われる事は予想されたため、それに対する配慮と対処法を何度も検討し、新年度を迎えました。新年度スタートの日、勤務者は普段以上の緊張感の中、事前準備に加えて利用者への説明と、居室が変わった事で起きるであろう様々な事への支援を行い、戸惑いを可能な限り抑えた状態で、就床時間を迎えました。その夜は普段に比べて日課が遅れるだろう、入眠に時間がかかるだろう等予測をしていたのですが、予想を反して、普段と変わらず日課が流れ、普段と大きく変わらず皆さんが就床、入眠されました。２日目、３日目と日が経ち、上手く移行出来たのだなと思ったのでした。新年度のスタートは、コロナ感染予防対策のため、外泊、外出、面会規制がされている中でのことでした。利用者の方々の生活にも影響が出ていた時で、上手く事情を理解できない中、毎日「お母さんは！」「外食行く！」等の訴えがあちらこちらで聞こえていました。変化に弱いとされる特性を持つ方達には大きな負担であったと思います。それでも、だからこそ、三気の里の日課は、「外に出ない」、「最小限の人との関わりで生活をすること」以外は、毎日毎日が今までと変わらないような形で繰り返され、その上でスタッフによる音楽会やマーケット等の楽しみが加わって日常生活を保ってきました。振り返ってみると、利用者の方々は私達が心配する程は混乱していなかったようでした。色々ありながらも頑張って、いつも通りを繰り返してこられたのだと思います。

利用者の方々も「老い」により変化がおき、それに伴い暮らし方の変化を受け入れられ、これからは、障がい特性である特異な行動に対する支援と同じく、老いに対する支援が重要となるのでしょうが、これまでの積み重ねで収得してこられたことは、やはり個々の大きな財産であり、それをもとにまだまだ新たな事を受け入れられ、変わっていくこと（成長）が出来るのだと思います。

最後に、利用者の方々にも「コロナ」という言葉が新たに加わったのですが、帰宅や外出が出来ないと説明を受けるたびに「地震！地震！」と叫ぶ方がいます。帰宅や外出がない状況は、熊本地震のあの時と同じで、地震後を思う事で理解出来ているのだろうと思います。何事も経験値となっているのだと感じる事柄です。

7月スケジュール

三気の里

1（水）ショートステイ再開
2（木）ローソン移動販売
3（金）訪問理容サービス
6（月）日中活動再編
7（火）嘱託医来診
8（水）訪問理容サービス
9（木）わっふる基礎講座
10（金）訪問理容サービス
11（土）帰宅日（※家族会は中止）
16（木）夏祭り
22（水）スタート会
31（金）訪問理容サービス

寄付ありがとうございました

満塩 武臣 様　林 千莎子 様
※順不同

【マスク】
荒牧 貴子 様　佐藤 博之 様
児玉 静子 様
※順不同

【その他物品】
亀崎 幸久 様　清田 栄一 様
魚谷 秀文 様　佐藤 博之 様
赤星 央子 様　井上 優 様
大堀 憲二 様　岡本 則子 様
前田 眞澄 様　美光 産業 様
田中 満子 様　小牧 博典 様
坂口 正浩 様
※順不同

後援会ありがとうございました

【後援会】
森川 琇介 様　山内 守 様
長澤 秀昭 様　清藤 文弘 様
高野 麻衣 様　井上ちえ子 様
大畠 照雄 様　魚谷 郁子 様
森木 美樹 様　林 千莎子 様
白井 桂子 様　田中 基幹 様
よつば調剤薬局 様
熊本県総合保健センター 様
※順不同

「回想　田中稔先生」

施設職員　五嶋　和明様

私も知的障がい福祉に関わり、30有余年となった。還暦を迎え来年勤務する施設を定年退職する。

さて、送られてくる機関紙「たんぽぽ」を読みながら創設者の田中稔先生の面影を記したくなった。

昭和62年、私は大江町渡鹿の「精神薄弱者育成会」（現・手をつなぐ育成会）事務局に出向中で、局長の指示により親の会連絡協議会にオブサーバーとして出席した。その際、田中先生にお会いし、特に非凡な印象はないものの、芯の強い穏やかで誠実な人柄を感じた。

「三気の里」開設までのご心労は並々ならぬものだったと思う。旧精神薄弱者福祉法には「授産」と「更生」施設の記載はあるが、自閉症に特化した施設を作りたいとの先生の願いは、困難を伴った。行政機関は必ずしも前向きではなく、他施設もそれほど好意的ではなかった。

世間では「自閉症」は親の育て方が悪いと半ば公然と語られていた時代である。田中先生は、多くのお母さんたちの涙を背負われたのだろう。「のん気」「こん気」「げん気」の理念の出典は忘れたが、今の「三気の里」にも先生の御心が脈々と受け継がれ涙のにじむ想いがする。（特定の人物・団体を批判しているわけではなく、その時代の渦の中に私もいました。）

田中　稔先生と所縁のある方よりお便りを頂きましたので、ご本人の了解を得て掲載致します。